

「応援します!! あなたの農業」

地域農業の  
未来を応援します!

福島県  
農地中間管理機構



# あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 58号 平成31年3月

発行元 福島市中町8番2号  
公益財団法人福島県農業振興公社  
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

## D”ATCHの橋本宏幸さんといわきの芳賀正道さん、東北大会へ出場!

～平成30年度「福島県農村青年会議」を開催～

福島県農業青年クラブ連絡協議会と県と当公社の主催による「福島県農村青年会議」が、1月21日(月)に郡山市の県農業総合センターで開催されました。この会議は、農業青年などが一堂に会し、農業経営やクラブ活動の課題解決のために取り組んだ「プロジェクト発表」や日頃の農業経営や地域活動を通して感じたことを発表する「意見発表」を行うことにより、本県農業・農村の復興と将来を担う農業青年の資質向上を目的としたものです。当日は63名が参加し、「プロジェクト発表」は2名の農業青年と2名の農業短期大学の学生、「意見発表」は3名の農業青年と1名の農業短期大学の学生が発表しました。また、日本調理技術専門学校副校長の鹿野正道氏を招いて、「福島の食文化を考える」と題して、ご講演をいただきました。

「プロジェクト発表」では、農業短期大学の遠藤耀平さんが「ブドウ‘ピオーネ’の房づくりの違いが果実品質や省力化に及ぼす影響」と題して発表し、最優秀賞(県知事賞)を受賞しました。

ブドウの花穂整形手法の違いにより、作業労力を軽減し、多様な消費者ニーズに対応できること



プロジェクト発表をする遠藤耀平さん(農業短大)



意見発表をする芳賀正道さん(いわき)

をわかりやすく発表した点が高く評価されました。

また、D”ATCH(安達地方農業青年クラブ)の橋本宏幸さんが発表した「きゅうり栽培拡大に向けて～点滴灌水導入で効率化」は優秀賞(公社理事長賞)を受賞しました。「意見発表」では、いわき農業青年クラブ連絡協議会の芳賀正道さんが「いわき市から世界に通用する理想のワインを目指して」と題し、ワイン作りで地域の将来像を描く大きなビジョンについて発表し、優秀賞(公社理事長賞)を受賞しました。

橋本宏幸さんと芳賀正道さんは、今年の9月に青森県で開催される農業青年クラブの東北大会に本県代表として出場します。

なお、その他の受賞者は次のとおりです。

- 「プロジェクト発表」
- ◇ 優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞) 皆川千尋(農業短期大学)
  - 「意見発表」
  - ◇ 優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞) 大塚千春(農業短期大学)

## 転貸面積は2年連続2,000ha超え

～平成30年度農地中間管理事業の実績について～

平成30年度農地中間管理事業の転貸実績は、始期ベースで2,070haとなり、前年同様、2年連続で2,000haを超えることができました。このうち、市町村が推薦し機構が指定している重点地区での実績が約4割を占めており、市町村等、関係機関・団体との密接な連携の下、農地中間管理事業の活

用推進を行う重点地区の重要性が再確認されました。改めて関係機関・団体のご協力に感謝申し上げます。

今後、事業実績を詳細に分析した上で、事業評価委員会による評価を受けることとなりますが、その内容については改めて公表いたします。

### 農地中間管理事業の転貸実績

転貸実績 (ha)			対比 (%)	
平成30年度 (A)	平成29年度 (B)	平成28年度 (C)	A/B	A/C
2,070	2,442	1,428	85	145

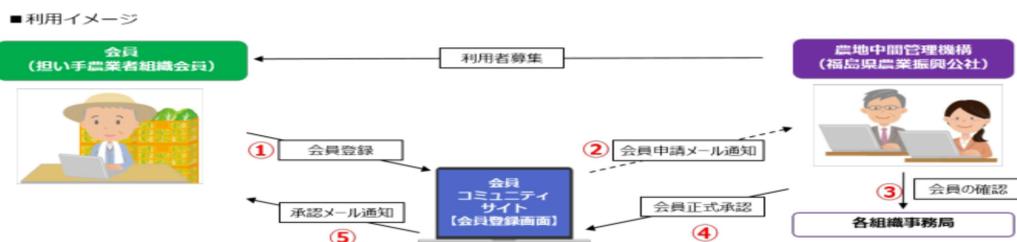
## コミュニティサイトの周知について

福島県農地中間管理機構では、担い手同士の情報交換や機構からの情報交換を行い、農用地の利用集積・集約化のさらなる促進を目的に、担い手が自由に交流できるコミュニティサイトを昨年3月に開設したところです。

開設以来、サイト会員の対象である機構が連携協定を締結した6つの担い手農業者組織会員の皆

さまに多数ご登録をいただいています。関係機関・団体のご協力に感謝申し上げます。

今後、サイト会員同士の交流の場となるようサイト内容の充実に継続して取り組んでまいりますので、引き続き当サイトの周知方よろしくお願い申し上げます。



## 地域マネージャー便り

福島県農地中間管理機構

県南推進拠点

地域マネージャー

そえた すえじ  
添田 末次



農地中間管理機構の県南地方の地域マネージャーとして、白河市をはじめ1市4町4村の市町村やJA等を拠点に、県南農林事務所に駐在して丸3年目を迎えようとしています。

農地中間管理事業推進では、各市町村や各JA

の担当者皆様には多大なる御理解と・御協力を頂き厚く御礼申し上げます。

平成31年度からは農地中間管理事業の5年後の見直しが設定され、人・農地プランの実質化に伴い、地域の実態調査に基づく合意形成や次世代への農地集積の計画づくりが求められています。

地域農業の課題や農家の要望を関係機関と更なる連携を図りながら地域の実情に合った事業推進をお手伝いいたしますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

## 第2回ふくしま農業アカデミーが 開催されました！

平成31年2月12日（火）に福島県農業青年クラブ連絡協議会の主催による「第2回ふくしま農業アカデミー」が日本調理技術専門学校で開催されました。

これは、調理師を目指す学生とともに自分たちの作る農産物を使った料理の試食会や意見交換を通して、農産物に対する評価を直接受け、自らの栽培・経営を考えるきっかけとすることを目的として開催されました。学生5名とクラブ員17名が参加し、クラブ員が農産物へのこだわりや生産工程について解説した後に、調理品を試食し、農産物の食味等についてグループディスカッションを行いました。

クラブ員は、それぞれが生産している米、春菊、小松菜、長ネギ、ニンジン、キンギョソウ、しいたけ、なめこ等の農産物やブドウジュース、ブルーベリージャム等の加工品を持ち寄りました。これらの農産物を使用し、日本調理技術専門学校の鹿野正道副校長により「いか人参の Pasta」や「小松菜の Pasta」、「長ネギのアヒージョ」、「人参カレー」、「キンギョソウのサラダ」、「麻婆なめこ」等に調理されました。



調理品を取り分ける様子



グループディスカッションの様子

調理品を試食したクラブ員からは、キンギョソウのサラダは色取りがよく、食用として販売していけるのではないかと、小松菜の Pasta は生の小松菜を使用していて、小松菜の新たな調理法が分かった、ブドウジュースをワインボトルとワイングラスに入れて飲んだものは、普段のものよりも高級感が出ていたなどの感想がありました。

後藤県連会長は、プロの料理人に調理してもらい、食材ごとの調理法がわかったので、直売会等で PR できる。これからも、それぞれの経営に生かしていけるようなイベントを行いたいとお礼を述べた。

「第2回ふくしま農業アカデミー」を通して、自分の農産物の調理法や強み・弱みを知ることができたと思います。強みを知ることによって自信につながり、まわりからの意見を聞くことで、刺激になり、来年はよりよいものを作ろうと目標にもなったと思います。クラブ員の今後の農業経営を発展していくことができる大変有意義な時間になりました。



## 「地域に支えられた小さな養蜂園の1年目」

ときとう まゆみ  
時任 真由美 (三島町)

ミツバチに関わる仕事がしたい。

漠然とした思いが就農の動機でしたが、これが「就農」という形になるとは、当初理解していませんでした。理解したのは、自然が生活の身近にあり、養蜂もさかん、と聞いた会津に移住してからです。

養蜂を行うつてなど全くありませんでしたが、幸い先輩移住者の方から、会津若松市の養蜂会社を紹介していただき、青年就農給付金を受けることができ、そこで1年間、安心して研修をする事ができました。

会社の作業現場の中へ、入れていただく形です。全てが初めての事。間違ったやり方、失敗も多く、落ち込む事もありましたが、実作業の中で仕事をさせていただけた事が、とてもありがたかったです。

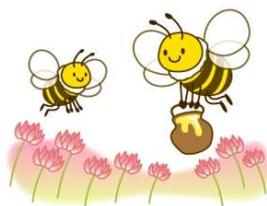
また、第一線で活躍している現場での研修は、技術面はもちろん、この地域の業界に繋がりを持つ、という意味でも、たいへん助けになりました。

昨年4月に独立しましたが、研修先の会社とは違い、規模も小さく、一人での作業になるので、同じやり方はできません。教えていただいた事をベースに、私なりの作業方法を模索しながらの1年目です。



初年の採蜜量は、だいたい予定どおり、はちみつの品質も良く、試食販売では「すごくおいしい！」などという嬉しい声と笑顔もいただきました。しかし、最も大切なハチの育成管理、収益面での課題が多くあり、養蜂技術の向上と経営を安定させていく努力が、益々必要と痛感した1年でした。

現在、奥会津三島町で活動しています。地域のイベントや、共同作業に参加させていただいている事もあってか、町の人に認められつつあると感じています。私のはちみつはミツバチと三島町の豊かな自然が作る恵み。日本全国へ届けたいと思います。



### 編集後記

日々忙しく仕事に追われている人の中には、休日は家でのんびり。それも結構なことですが、何かとストレスを感じる事が多い昨今、日常を忘れられるような風景にふれ、ストレス解消とエネルギーチャージをすることも必要かと思えます。

これから気候も暖かくなりますから、気軽

に見にいける場所を探しに、少し出掛けてみてはいかがでしょうか。(村松清一郎)

お問い合わせ

あて先 〒960-8681  
福島市中町8番2号 福島県自治会館8階  
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課  
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277  
URL <http://www.fnk.or.jp>  
皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい。